

《企画書》

提出者 Ren Toshie Miura

【タイトル】

ー日本を出てから初めて気が付いたー
世界が求める！日本人の中に流れる、絆を深めるすごいチカラ
帯：あなたの DNA に眠るスイッチを ON にしよう！

【概要】

この本によって、私たち日本人ががたくさん持っている長所を認めて自分を再発見し、生かし、周囲や社会、ひいては世界の人たちの絆づくりに貢献したい、貢献できる、と感じることを意図しています。

私を含めて海外に出た日本人、また海外から日本を訪れる人の多くが、日本や日本人がどれほど素晴らしいかを感じています。また最近、海外の人たちから、“日本人にもっと世界でリーダーシップをとってほしい”という声も次第に聞かれるようになってきました。

ちょうどコーヒーショップでこの企画を書いているとき、入店してきたアメリカ人が近づいてきて、初対面で会うアジア系アメリカ人のミーティング相手ではないか、と声を掛けてきました。人違いではありましたが、ついでに出身国などちょっとした会話をしたところ、声をかけてきたその人、パトリックは来月日本に行く予定があるとのことでした。思い切って、“なぜ世界中の国の中からバケーション先を日本を選んだのですか？”と聞いたところ、一番に出た答えは「倫理的な国だから」ということでした。。！なぜ日本が倫理的だと思うのか聞いたところ、一例として路上にゴミが一つも落ちていない、公共の場における掃除力を上げてくれました。

世界を旅する人々が「なぜその国に行くのか」と聞かれて「その国が倫理的だから」と答えてもらえるとは、なんと素晴らしいことかと思いませんか？

一方国内では、日本人特有ともいえる“自分たちの（性格の、社会の、国の等等）どこがいけないのか”という議論が圧倒的に多いような気がしています。課題点を吟味することは勿論必要で、実際それが一つの日本人の特長です。また、それがあるからこそ改善を続けることができます。と同時に、私たちは課題点にのみ目を向けがちなそうした性質があるからこそ、意識して自分たちの長所や美点にも目を向けていき、それを生かすことによって、私たち自身の幸せが深まると同時に周囲や社会、世界の絆も深まっていくのではないかと感じています。

【想定する読者ターゲット】

- ① 家族や職場、友人に外国人がいる人。自分と異なる背景で生まれ育った人と今環境をともにしていながらも、少し違和感を感じていたり、どのように接したらいいかわからない人。
- ② 自分はなぜここに生まれ、生きているのだろうと考えている人。自分は何をしたらい

- いのか、何かできることはあるはずなのだがそれがはっきりつかめない人。
- ③ 日々人を傷つけあう海外のニュースに心を痛めている人。自分にはどうにもできないと無力感を感じたり、逆に何かできることはないだろうかと思っている人。
- ④ 自分とその周囲、社会、世界の平和と幸せに何らかの形で役立ちたいと考える人。

【構成案】

第一章 日本人の素質と歴史

- ・1万5千年戦わなかった縄文時代
- ・聖徳太子の心を受け継ぐ日本人：「和を以て貴しとなす」
- ・250年戦わなかった江戸時代
- ・戦わずして平和を祈る代々の天皇
- ・戦いとは無縁の国歌(読み人知らず)
- ・ヒロシマ、ナガサキを二度と繰り返さないという国民の思いと願い
- ・焦土と化した全国土：大部分の国民の親・祖父母・祖先が戦禍を経験

第二章 日本の立ち位置

- ・白人でもない、黒人でもない
- ・先進国では唯一の非白人国家
- ・欧米人でもない、アジアでは ex Japan (日本以外) としてまとめられるなど日本はべつ
の存在、
- ・東洋と西洋のはざま国家
- ・クリスチャンでもない、イスラム教徒でもない、ユダヤ教徒でもない
- ・仏教徒は他宗教ととの対立が少ない

第三章 日本文化 v s 西洋文化

- ・日本と欧米は陰陽の間柄：日本は女性性、西洋は男性性
- ・世界：女性リーダーシップの増加と重要性
- ・日本株式会社社長&オーナー：天照大神
- ・21世紀：女性性の時代
- * 平和を促すのは女性性

第四章 人を優しくする日本語

- ・日本語を学ぶ社会人、教育者の証言
- 一母音
- 一文法：
 - ・述語はあと。状況を理解するのが先
 - ・主語がない：我が少ない
 - ・右脳 v s 左脳で処理
- * 日本語は右脳で処理。アルファベットは左脳で処理。
- ・日本語を学ぶと相手を敬う心が出る

第五章 調和を重んずる日本語会話

- ・「コミュニケーション」の語感の違い：聞くこと重視の日本人、いうこと重視の欧米人
- ・非言語コミュニケーションを察知する日本人、発する言葉で理解する欧米人
- * 欧米人：人が話している間に言葉を重ねる、日本人：文と文の感覚が長い
- ・最初に理解ありきの日本語会話
- * 相手を知ろうとする会話から成り立つ日本語
- ・問題発生時：自分のどこに非があるかを反射的に考える日本人、相手のどこに非があるかを反射的に考える西洋人

第六章 日本文化に浸透する協調と協力

- ・協調、協力を促す学校教育
- ・全員参加の掃除
- 飛ぶ鳥後を濁さず
- 掃除で場を清める
- 掃除で魂を磨く
- ・Tokkatsu: エジプトを変えた日本の特活
- 責任感、協調性、寛容さ、敬意の念の醸成
- 復興の力

第七章 日本の復興力と世界のニーズ

- ・今後災害が増加、多発する世界
- ・災害多発国としてそれを乗り越えた歴史
- * 災害の多さ
- * 災害対策の技術
- ・戦敗国として唯一の先進国家

第八章 世界：助け合う時代への移行。殺しあっている場合ではない

- ・地球環境問題
- ・人類すべてが地球船の旅客

第九章 日本人の潜在意識の変化

- ・鬱の多い日本：今とは異なる環境にいるべき日本人の増加を示唆

第十章 今日からできる、日本人の長所を生かした小さな絆づくり

- ・挨拶、声掛け
- ・集まりのリーダーとして
- ・寄付（おカネ、モノ）
- ・今ここにいることの意味と誇りを感じよう

【サンプル原稿】

第五章 調和を重んずる日本語会話

- ・「コミュニケーション」の語感の違い：聞くこと重視の日本人、いうこと重視の欧米人

現在私がいる金融業界で最近よく出てくる引用は、“People don't care how much you know until they know how much you care”（人間というものは、自分のことを大切にしてくれていると感じなければ、あなたが何を知っていようがそんなものに関心など持ってはくれない）というセオドア・ルーズベルトの言葉です。また自己啓発系の本や動画でよく出てくる言葉に、“You have two years and one mouth. You need to listen more than you speak”（人間に口が一つで耳が二つあるということは、話す以上に聞くことが大切だということだ）というものがあります。

話すよりも聞くことの方が大事だ、というのは人の資質として大切だ、というのは東西共通しているようです。それは、人種言語を問わずだれもが「自分をわかってほしい」という思いを持っており、それを満たしてあげるのが立派なことだということではないでしょうか。

日本語は、その「聞く」というチカラ、「自分をわかってほしい」というニーズを満たすチカラがあります。

「コミュニケーション」の語源は、ラテン語の「共有」から来しました。

私が日本にいたころ、「飲みにケーション」という言葉がありました。しばらく日本を離れている私は、時にふる~い言葉を使い笑われてしまうことがあります。そのころの「飲みにケーション」の意味は、お互いに胸を割って心の絆を深めあうという意味合いがあったように思います。

日本語で「コミュニケーションをとる」という言葉を使うとき、それはたいがい「相手の気持ちを聞く」という意味であることが多いのではないのでしょうか？

一方、英語で「コミュニケーションをとる」というとき、どういう意味で使うかご存じですか？その中には「自分の考えを相手に伝える」という意味が込められています。

つまり、「コミュニケーションをとる」という言葉は同じであっても、日本語のコミュニケーションとは「聞く」ということに重きが置かれ、欧米では「話す」のが中心です。

私たち日本人は、相手と思いや考えを共有するうえで、知らず知らずのうちに「聞く、受け取る」態勢からまず入り、欧米人は「話す、伝える」態勢から入ります。

ちなみに、“うちの親は（上司は）全然自分の話なんか聞いてくれないよ！”という方もい

るかもしれません。そんな親御さんや上司の方にはどのような言葉がけをされますか？私はよく“何度言ったらわかるんね！”と叱られていました。今考えてみれば、それも一応質問形です（笑）。もちろんそれにこたえて”100回！”などと答えるとさらに叱られると思いきり黙っていましたが。

・非言語コミュニケーションを察知する日本人、発する言葉で理解する欧米人

アメリカに来て間もないころ、もちろん英語を聞き取るのは今以上に苦労していましたが、英語そのものの聴解力の困難に加えて、アメリカ人同士の会話のやり取りのスピードが非常に速いことにも目を丸くしました。

が、1、2年たつうちに、英語のやり取りのスピードが速いのは、必ずしもアメリカ人の頭の回転が速いから、というわけでもないということがわかってきました。

アメリカ人は、日本人が相手の話を聞く時よりも、相手に応答する前に頭の中で相手の言葉を反芻する時間が短いからだということに気が付いたのです。

日本人の会話のスピードはアメリカ人のそれに比べて非常に遅いことにも気が付きました。

それは、日本人が相手の話を聞いている間、同時に話をしている相手の声のトーンや抑揚から相手の感情を受け取ろうとしたり、対面の時は顔の表情、ボディランゲージから、話の背後や背景にあるものを感じ取ろうとしてエネルギーを使っていることにも気が付きました。

*日本人：文と文の間隔が長い、欧米人：人が話している間に言葉を重ねる、

日本人の言葉のやり取りの間隔は長いことが多いですが、心や頭の中は、非言語的コミュニケーションを受け取りながら、相手を理解しようと全力回転しています。

アメリカの会話についていくためには、相手の話が終わるや否や自分の話を始めなければなりません。そもそもそばそばにいる他の人がしゃべりだして自分の話す余地がなくなってしまう、ということが往々にして起こります。

が、そのように間髪いれずに相手が話を終わると同時に自分が話し出すためには、相手が話している間に自分が話すことを考えなくてはなりません。つまり、相手の話を集中して最後の最後まで聞いているかということ、そうでもないなと思うこともしばしばでした。

2020年の米国大統領選の討論会では、お互いの大統領候補が相手の話が終わらないうちに自分が言葉を重ねて話を始めてしまう、ということが頻発し、視聴者は一体どちらが何を話しているのか聞き取れなくなってしまいました。ついにテレビ局は、一方が話している間は他方のマイクを切る、ということをやらねばならず、以来それが慣行となりました。日本では起こりにくい事態ではないでしょうか？

・最初に理解ありきの日本語会話

* 相手を知ろうとする会話から成り立つ日本語

アメリカに来て以来、さまざまなグループの中に入れてもらう、という機会がかなりありました。そんなときのアメリカと日本の会話のしかたもやや違うようです。

アメリカでは、お互いに自己紹介として自分が何者かということをお話します。そして会話が始まりますが、多くの場合、各々が自分の考えをお話、というパターンが多いようです。アメリカでは「話す」「自分を知ってもらおう」というのが会話の基本として成り立っているような気がします。

日本の場合、よく見られるのは新しく入ってきた人に対していろいろな問いかけをしてメンバー全体がその人となりや背景を知る、というパターンが多いのではないのでしょうか。日本人は、やはり「聞く」「相手を理解する」ことが基盤となっているような気がします。

・問題発生時：自分のどこに非があるかを反射的に考える日本人、相手のどこに非があるかを反射的に考える西洋人

アメリカに来て間もないころ、勤務していた会社の社長の夫婦仲が長年にわたって非常によかったので「コツはなんですか？」と聞くと、その社長は「なにかミスコミュニケーションが起こるときは、いつも妻が正しくて私が間違ってるんだよ。妻に“すまなかったね”と謝るとたいがいそれでおさまるんだよ」と話してくれました。

日本人の多くが、自分の非を認める習慣を小さいころから培っているのではないのでしょうか。自分が悪かったと認めるのは時に難しいことですが、相手を立て、自分が相手よりも下がるのは、相手を敬いお互いが穏やかな気持ちになるおおきなチカラとなると思います。

日本人は自分の非を認める、というチカラを小さいころから自然に身に付け持っているようです。それによってさまざまな人との関係もスムーズに運んでいくことができます。

それは又口グセにもなっていることを海外に出るとより強く感じます。

私はテニスをしますが、ミスをしたたびに言い慣れた言葉、「アイムソーリー！」を連発してしましますが、同じような口グセの日本人も多いようです。これはビジネスの場面も同様です。日本人はよく「アイムソーリー」を言葉にするなあと感じます。

アメリカで同じ頻度で使う言葉は「サンキュー」ではないのでしょうか。

ただアメリカでは、ときに引き合いに出される交通事故のケースのように、お互いに非があったとしても先に謝ったほうが負けと考えられることも多いようです。

アメリカで一般的に「アイムソーリー」という言葉を使うときはかなり注意を払っているような気がします。

私はアメリカに来て三度ほど追突されましたが、そのうち二度は相手側のドライバーに「自分はやっていない」と後で反論されました。証拠は残っていたので結局相手方の保険会社は支払ってくれましたが、交渉するのにかなり時間がかかりました。

日本ではこのようなケースで「自分に非はない」という人は少ないように感じます。日本のようにお互いが自分の非を認めることができれば、無駄なエネルギーやおカネを使う必要もなく物事がもっとスムーズに進むのではないかと思うこともしばしばです。

逆に言えば、日本や日本人は、だれが非を認めるかといったせめぎあいや交渉をする必要が少ないので、ものごとがすみやかに流れていきやすく、そうした点ではストレスを感じることが少ないのは大きな利点であり、美点だと感じます。

[以上となります。よろしくお願いいたします]